

発達が気になる子のために  
就学前にしてあげたいこと  
(やらないほうがいいこと)

2020年7月16日

医師 遠藤尚宏

0. 発達過程を意識しよう！

発達段階に沿った関わりをしたほうが、  
うまく行きやすいし、  
背中を押す力も少なく済む！

×無理して逆立ちさせない



発達特性のある子には取り入れたい対応  
(もちろん、すべての子どもにも有効)

- 自閉スペクトラム症

TEACCH (構造化、視覚的手がかりの使用、個別性)

ABA (事前の出来事、子どもの行動、結果に分けて対応)

- ADHD

行動療法 (子どもの行動を3つに分けて、各々の対応をする)

- 知的障害

その子の発達段階に合わせたしつけ・保育・教育

増やしたい  
行動



褒める  
注目する

減らしたい  
行動



何もせず見  
守る  
(過剰に反  
応しない)

許しがたい  
行動



制限を設け  
る、公正に・  
非身体的に

望ましい行  
動を増やす

期限つき  
因果関係  
を明確に

一貫性と継続性が大切

- 有用性がわかっている保育・教育・療育方法、トレーニングの中で、どれかが他より明らかに勝っているというものはない
- 現実的には子どもや環境に合わせて、色々と組み合わせることになる

**= 特定の方法に時間とお金を費やしすぎるべきではない**

# 1. 誰かに望まれる存在であると感じてもらおう

子どもは愛された経験がないと、  
人を愛するようにならない

# 子どもの発達：社会性（対人面）

## 乳児期からコミュニケーションは始まっている

6 か月

- ・（1歳半にかけて）他者の表情を意味づけする力が育ってくる 例：段差

1 歳

- ・1歳半には愛着による記憶によって自分自身を安心させられる

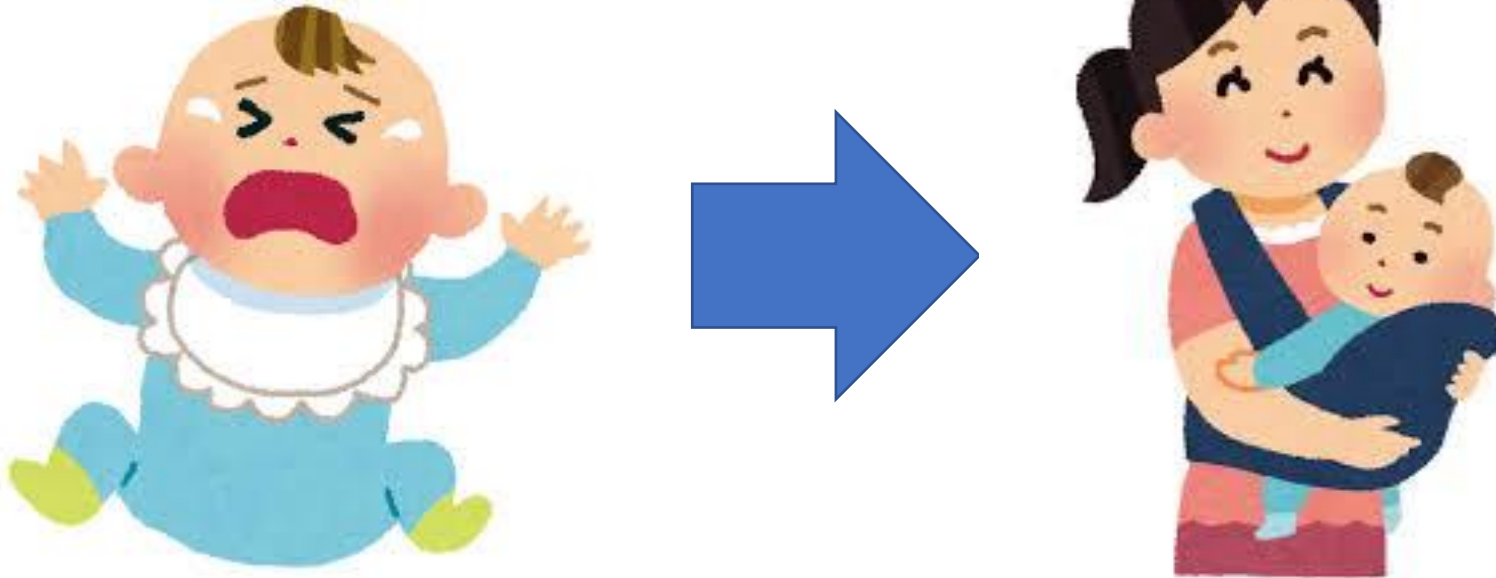
1歳半

- ・他者の注意を自分の興味の対象物へ向けようとする

2歳

- ・他の子と同じ場所で遊べるようになる  
例：砂場で各々砂遊びをする

# 乳幼児期に大切なこと



子どもが不快な時に、子どもに『安心・安全』を与えることができるという関係性  
⇒ **愛着の関係性**



誰かに望まれることで、子どもは

人に対して望むようになる

正しい望み方を知る

正しく自分を望んでくれる人がわかるようになる

## 2. 「報われた」という経験をさせてあげる

- 非認知能力を育てるために有効

- 特に、

衝動性の強い子

不安の強い子

愛着形成に問題がある子

のためには欠かせない

子どもは何度でも

「すごいね」

「それいいね」

「よくできたね」

「がんばったね」

「ありがとう」

「大好き」

って言われたい！



我慢 は大事だが . . .

- それは報われた経験があつてこそ

「できた、わかった、認められた」

「嫌だったけど、大丈夫だった」

「～に話してよかった」

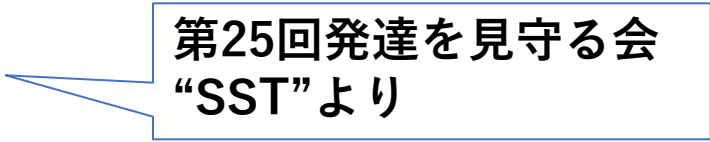
- やらなきゃよかった、やっても無駄だったばかりだと辛い  
→ 「どうせ」

我慢 「させる」 だけでは我慢強さは育たない

# しつけとは

- しつけとは、子どもが『**自律＝自ら律する**』力をつけることを導くこと
- “恐怖”を与えて子どもをコントロールすることは“しつけ”ではなく“支配”  
⇒ 支配は『他律』

# 報われるまでの早さも大事

- 子どもは基本的に待てない
- 先読みして、自ら段取りをつける力が芽吹くのは7, 8歳以降
- よいことをしたら、60秒以内にフィードバック 

第25回発達を見守る会  
“SST”より
- 即時報酬、トークン、積み重ねでもらえるご褒美、を組み合わせる

※ゲームやスマホは少ない労力で、素早く大いに子どもを満たしてくれるので、悩みの種になりやすい

☆自発性も尊重☆

自由奔放な保育 VS 英才教育

# 子どもに「叱咤激励」は×～△

第9回発達を見守る会  
“偏食”より

「早く食べなさい お前のためだ

がまんして食べる は教師の禁句」

諏訪1996

- 自閉スペクトラム症があれば、人の考えを察することが苦手
- 5歳くらいまでは「楽しい」ことが最優先
- ADHDの子は我慢が苦手
- 叱咤しかされていない（報われていない）子どももいる

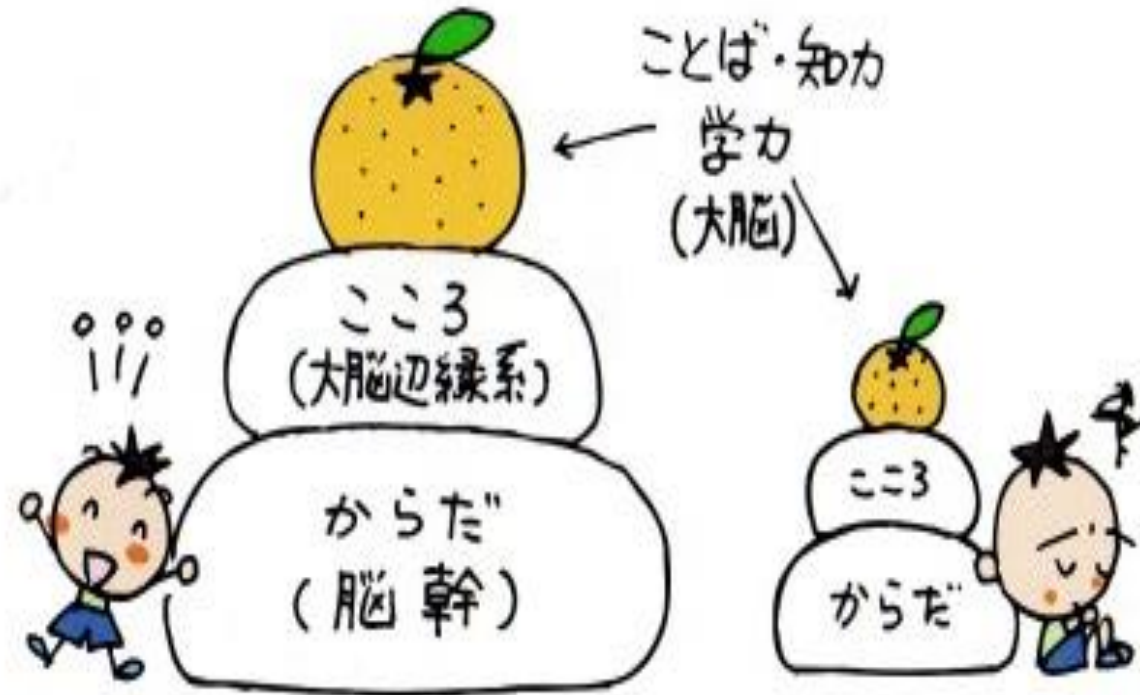


### 3. 子どもの言語能力を伸ばすため、 大人が努力を惜しまない

- 聞いてあげる
- 子どもはうまく言えないときは待つ、一緒に考える、選択肢を与える、言い当てる  
= 言語化する手伝いをする
- よりよい伝え方、やり方も教える = 要約する  
(言い直させる必要はない)

- 視覚的の手がかり、感情が動いた経験なども活用  
= まずは共感、コミュニケーション。後に言葉がついてくる
- 話してくれたこと、表現できたことを評価・感謝する  
= 話してよかった、伝わってよかったという経験
- **大人がお手本になろう！**

# ことばと脳のはたらき



引用：ことばが伸びるじょうずな  
子育て

第6回発達を見守る会  
“乳幼児期のことばの発達”より

## 「気持ちを分け合う」

- ◆気持ちを分け合うこと、分かり合うことは、赤ちゃんが「泣いて声を出せば大人がやってきて気持ちよくしてくれるんだ」という経験をたくさん積むことから始まります。この一手間が先々の「ことば」につながっているのです。

# S O U L – 子どもと関わる態度の基本

- ◆ 「S」・・・沈黙 (S i l e n c e)  
子どもの行動や目の動きを静かに見守ります。
- ◆ 「O」・・・観察 (O b s e r v a t i o n)  
よく見ること、です。子どもをしっかり観察しましょう。
- ◆ 「U」・・・理解 (U n d e r s t a n d i n g)  
観察したことからを、これまでのその子どもに関する情報と照らし合わせて、理解します。
- ◆ 「L」・・・聞くこと (L i s t e n i n g)  
今、その子が言っていることも、今まさに言わんとしていることも、まだ全然言えていないことも、全部聞こうとするような聞き方をしましょう。

## 働きかけの方法

- ◆子どもがしていることをまねする（ミラリング）
- ◆子どもの出す声や音をまねる（モニタリング）
- ◆大人が自分のしていることを話す（セルフ・トーク）
- ◆子どものしていること、言いたいこと、気持ちを言う（パラレル・トーク）
- ◆子どもが間違えたことばをさりげなく直して返す（リフレクション）
- ◆ことばの内容を広げて返す（エクспанション）
- ◆ゆっくり、はっきり、繰り返して話してあげる

# 保育、（就学前の）早期療育

- より多くの語彙への暴露が期待される
- 家庭だけでは得られない社会的経験を得られる
- 物ごとに取り組む意欲、長期的計画を実行する能力、感情コントロールといった非認知的スキルも向上する



- 学校生活の成功率をあげ、進学率をあげ、非行・十代の妊娠・失業を減らすことがわかっている

# 家庭の経済格差と子どもの認知能力・非認知能力格差の 関係分析 - 2.5万人のビッグデータから見えてきたもの - 日本財団 より

- 貧困を背景とする学力格差は小学校初期から存在するが、大きく差が開くのは小学4年生頃
- 学年が上がるにつれ、貧困世帯は低学力へ、非貧困世帯は高学力へ集中していく
- 学年が上がるにつれ、貧困状態や低学力層から脱することのできる可能性も低下していく

※海外の文献では、経済的に貧しいほど、家庭で使われる語彙の数が少ないと指摘されている



ところで・・・

家庭機能の弱さを抱えているケースは、実は、保護者が・・・

- 1. 人に頼る・望むということをしていない、うまくできない**
- 2. 報われるまで待てない、ずっと報われた感じがしない**
- 3. 言葉で表現することが苦手**

である場合がある。

上記を配慮して親に関わることに、支援者が子どものロールモデルになることが必要になってくる。行政を含めた早期支援が要。

# “気になる”を指摘されることに抵抗がある 保護者の気持ち

第3回発達を見守る会“保護者支援”より

- 育て方を否定された。
- こどものことを「変な子」「おかしな子」という目でみられた。
- こどもを障がい児にはしたくない。

ショック

否認・拒否

発達のアンバランス（凸凹）に対する気づきがないと、  
自身を否定されたように感じてしまう

混乱・怒り

（気づいていてもまだ受け入れられないのかもしれない）



厳しく躰ける、思うように育たないことへの失望

# ステップ1

# 日々の関わりでできる保護者支援

第3回発達を見守る会“保護者支援”より

1. 日々の関わりの中で感じたその子の“困り感”を保護者へ伝える。
  - 困っているのは（将来、困ることが起きそうなのは）その子（こども）自身!!
2. 家庭での様子や保護者の困り感を確認。あわせて、家庭でどのような関わりをしているのかを教えてください。
  - 家ではどんな様子なのか。保護者の困り感はない？  
園や学校などと家での様子にどの程度の違いがあるのか確認。
  - 関わりを一方通行にしない!! “一緒に考えていきましょう”

3. 関わりの中で上手くいった点・上手く対応できなかった点を保護者と共有する。

●“～ができませんでした”の報告だけでは、保護者の焦りや不安が大きくなる。



- ★繰り返すことで、保護者のその子への理解を深めていく。
- ★保護者との共通理解を図る。
- ★保護者に“ひとりではないよ”のメッセージを伝えていく。

関わりの中では保護者の価値観を否定しない！

第3回発達を見守る会  
“保護者支援”より

# 運動面

- ブランコ、ボールプール、トランポリン
- 砂や粘土遊び
- 外（緑の野原）を駆け回る

楽しく♪



# 日常生活動作



個人的な経験から、就学先を決める大きな要素だと感じる

就学の1年前までは特別なことはせず、本人のペースにまかせる  
年長（5歳児クラス）になったら、自立していないものは個別練習する（訓練というよりは、日々練習、習慣づけとして）

できれば、教育支援委員会の時点で、遅くとも就学までには日常生活動作が自立していたほうが良い

# 本日のまとめ

(発達が気になる) 子どものためにしないほうがいいこと

- **その子の発達レベルを超えた要求をする**
- **力関係・恐怖によって従わせる**
- **しつけと称しての体罰**
- **叱るだけで褒めない**
- **話すことが苦手な子に、うまく話すようプレッシャーを与える**

※ 説得 < **納得** が長い目で見てうまくいく

# 本日のまとめ

(発達が気になる) 子どものために就学前にしてあげたいこと

0. 発達過程を意識しよう！

**1. 誰かに望まれる存在であると感じてもらおう**

**2. 「報われた」という経験をさせてあげる**

**3. 子どもの言語能力を伸ばすため、大人が努力を惜しまない**

**一人一人の子どもに興味を持って見て、応えてあげましょう。**



# 発達を見守る会

**ホームページ** <http://www.hattatsu-mimamoru.com/>

過去の講義資料が載っています

参考資料  
主に過去の見守る会より

# 0～2歳の発達

- 愛着形成が最も大切
- 言語発達は言語理解で評価
- 「そこにあるから」が重要な行動の理由

- ～1歳 指さしをする  
呼名に振り向く  
人見知り
- ～1歳半 明らかな単語
- 2歳代 他の子と一緒にいられる

# 3～5歳の発達

- 自己実現の達成
- 自己制御の発達
- 「楽しい」が行動規範  
→かんしゃくを起こすきっかけ

第4回発達を見守る会  
“かんしゃく”より

- ・ 3歳～ その場で話し合っ  
てルールを決める。ままごと、ヒーローごっこなど。
- ～4歳 何・どこ・誰の理解  
他の子と一緒に遊べる
- ・ 5歳になっても、他の子の  
視点でものを考えることは  
多くない。

# 子どもの発達：社会性（対人面）

- ・ 2、3歳頃から「いい事」、「悪い事」がわかるが、あくまで大人の承認を得たいため。気持ちや考えに一貫性はない。
- ・ 4歳あたりには相手が自分と違う考えを持っていることに気付く (theory of mind)。順番を守ることの大切さがわかるが、不公平だと文句を言う
- ・ 4歳頃から他の子と協力して遊べるようになる。  
例：砂山を一緒に作る。
- ・ 5歳になっても、他の子の視点でものを考えることは多くない

## 子どもの発達：社会性（対人面）

- 6～8歳 時間軸を意識しづらい  
= 後先考えない行動様式
  - 9歳～ 大人のミニチュアのような社会を  
形成しはじめる  
= 「暗黙の了解」が求められる
- 状況を読めない子、視覚的情報がわかりづらい子、他者の思考を読めない子はつらい思いをする

# Piagetが提唱する発達段階

感覚運動期  
(0～2歳) 反応に興味をひかれ、また繰り返す (循環反応)  
見えなくなってもまだ存在しているとわかる (対象の永続性)  
真似をする (模倣行動)

前操作期  
(2～7歳) 主観的 (自己中心性)、過集中 (中心性)  
後半から理性的な考え方を始める (直観的思考期)  
『「今」しかない』

具体的操作期  
(7～11歳) 論理的思考の開始  
具体的 (視覚的) な情報を要する

形式的操作期  
(11歳～) 抽象的な思考の獲得  
(答えがでないことを認められるようになってくる)

# 気持ちをコントロールする力を育てるために知ってほしいこと

- イヤな気持ち（恐怖、不安、悲しみ、怒りetc..）は『安心感・安全感』に包まれることで脳の中で自動制御される
- 大人が恐怖や不安を与えて制御すると脳の中の自動制御機能が育たない

第15回発達を見守る会  
“気持ちをコントロールする力の育て方”より

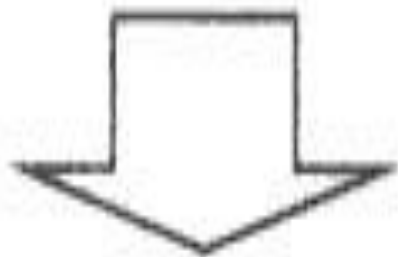


# 参考：“気持ち”の大原則（亀岡、2017）

- ①どんな気持ちでも **気持ちである限り害はない**
- ②どんなにひどい気持ちでも、**時間が経てば必ずおさまる**
- ③気持ちを無視したり押し殺したりすると、**爆発して衝動行為となる。自分の気持ちに気づくことが大切**
- ④**気持ちをことばで表現すると、気持ちをコントロールしやすくなる**

第15回発達を見守る会  
“気持ちをコントロールする力の育て方”より

子どもを楽しみ，子どもと楽しもう！



子どもをみる余裕・子どもと関わる余裕へ

子どもたちを楽しむ

第19回発達を見守る会  
“知的障害論  
実際の指導”より

## 〔知的障害教育の教育課程〕

教科が先にあるのではなく、子どもが先にある。

すなわち、教科に子どもを合わせるのではなく、教科が子どもに合わせるのである。 → 特別支援教育の視点：number one より only one

（子どもの実態に応じて、教科のねらいや内容を構成する）

第19回発達を見守る会  
“知的障害論 実際の指導”より

# スキルを学ぶ(獲得する)には

第25回発達を見守る会  
“SST”より

## 個別の 取り組み

## グループでの 取り組み

- 教えてもらう
- お手本を見る
- やってみる
- いい気になる
- 繰り返す
- 応用

- 言葉や絵・写真で伝える
- お手本を見せる
- 子供にさせてみる
- ほめる・認める
- 反復
- 活かすための取り組み

教示  
モデリング

リハーサル  
フィードバック

反復学習  
般化

体験を通して

段階を得て  
身に付く

成功体験

般化と維持

# 行動を助けるテクニックなど

第25回発達を見守る会  
“SST”より

## • 強化

- やって欲しことを子供がした時に、  
ほめる・ご褒美をあげること（60秒以内に）

## • プロンプト

- やってもらいたい行動が出ない時にする促しやヒントです  
（最後の一押しもあり）

## • スモールステップ

- 無理なく一歩ずつ進めること（やる気を出させます）

## • ポジティブな行動の支援

- できてないこと⇒×　できていること⇒○

## • トークンエコノミー（目標を作ることが大切）

- 目標が達成されたらポイント⇒溜まったらご褒美



# 強化子(好子)

第25回発達を見守る会  
“SST”より

- 拍手する
- 頭をなでる
- 身体に対してマッサージ（器具を使ってもよい）
- 高い高い
- 言葉での賞賛 言葉で具体的な行動をほめる（笑顔もOK）
- ハイタッチ グループメンバー全員とすることもあり
- 抱きかかえてグルグル回す 子供が希望した時に・・・
- 指でOKの形を作る 言葉も併用して
- 好きなDVDを見れる
- 外出 トークンを集めたら、ご褒美に好きなことができる
- お金・お小遣い お風呂掃除を1回するたびに10円がもらえる



**強化子は、個人個人違います。（子供にとって好まれること）  
SSTでは、行動の後にすぐに出せるものが良いでしょう。**